

答えに
使われる
記号

書く順番がきまっています。

例 『㊦、㊧』は、㊦㊧の順に答えていたら正解です。

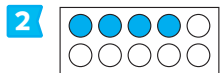
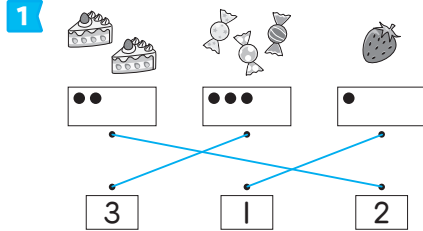
どの順番で書いても構いません。

例 『㊦・㊧』は、㊦㊧でも㊧㊦でも正解です。

さんすう

1 5までの かず

2ページ



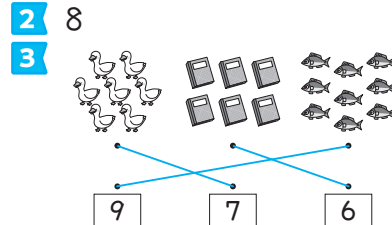
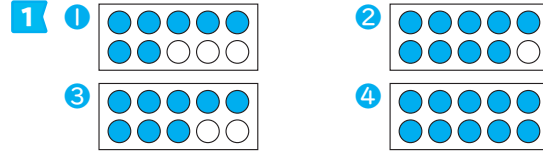
- 3 ① 3 ② 5
 ③ 4 ④ 1
- 4 ① 1 ② 2

→てびき 5までの数の正しい読み方を身につけます。「4」は「し」または「よん」と読むことを覚えましょう。

- 1 具体物を半具体物に置きかえ、それと数字の関係がわかるようにします。数字が個数を表す記号であることを意識させます。
- 2 ○に色をぬるときは、1の図のように左上から横に順にぬるようにしましょう。
- 3 ものの数を数えるとき、数え落としや重なりがないように、数え終わったものに✓や／などのしるしをつけていくとよいでしょう。
- 4 4の分解ができるようにします。具体物を分けて、4がいくつといくつに分けられるかを考えます。

2 10までの かず

3ページ



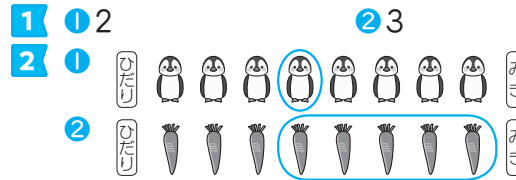
- 4 ① 8 6 ② 10 7
 (○) () (○) ()

→てびき 1 数字の数とぬられた○の数が同じであれば正解ですが、「5とあといくつ」という意識を持たせるために、答えのようなぬり方がよいでしょう。

- 3 数字と|対|に対応させる練習です。必ず具体物を数えてから、線で結びましょう。
- 4 わからない場合は、数字の数だけ○に置きかえて考えてみましょう。

3 なんばんめ

4ページ



- 3 3, 4
4 ねこ

→てびき 1 「左から」「右から」など、問題文を正しく読み取ることが大切です。

- 2 集まりを表す数と順番を表す数を区別できているかを確認しましょう。
①は順番、②は集まりを表しています。
- 3 順番を表す基準には、「左から、右から」だけでなく「前から、後ろから」や「上から、下から」などがあります。
まず、みきさんの位置を確認し、基準が前か後ろかをおさえてから数えます。
- 4 上下の位置を表す問題です。基準が上か下かをおさえてから数えます。

4 いくつと いくつ

5ページ

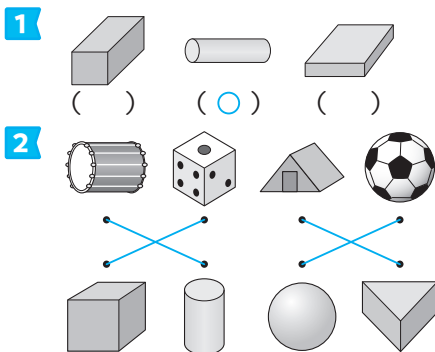
- 1 3
- 2 ① 5
 ② 4
 ③ 7
 ④ 10
- 3 ① 5 (こ) ② 7 (こ)
- 4 ① 3 (こ) ② 2 (こ)
 ③ 0 (こ)

→てびき 1 8個が5個と3個に分けられるから、「8は5と3」となることをおさえましょう。

- 2 ③、④あわせるといくつになるかを考えます。
- 3 ○をかいたり、指で数えたりしてもよいですが、「あといくつ」が数で考えられるように、しっかりと学習しましょう。
- 4 ③何もない数を「0」という数字で表すことを学習します。0のときも単位がつくことに注意しましょう。

5 いろいろな かたち

6
ページ



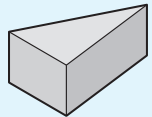
- 3 ① 3
② 3
- 4 ○ □ △
() () (○)

→てびき 1 箱のような形と筒のような形を区別します。筒のような形は、転がる形です。

2 立体を特徴によって仲間分けします。模様や色によって分けるのではなく、平面か曲面かのちがい、平面の形などによって区別します。

3 箱のような形と筒のような形を区別します。

4 右のような立体の形を写したときの形を「さんかく」ということばで表現できることもおさえておくといよいでしょう。



6 ふえたり へったり

7
ページ

- 1 ① ×
② ○
- 2 9, 2
- 3 ① 5 (こ)
② 3 (こ)
③ 6 (こ)

→てびき 1 日常生活で使っていることば（食べる、乗る）が、算数では増減を表していることを理解します。間違えたときはブロックなどを動かして、数の増減を確かめてみましょう。

2 2つの絵をよく見て、増えているか減っているかを考えましょう。わかりにくいときは、文を読みながら色紙にしるしをつけて考えましょう。

3 ①、③「もらう」から増えます。
②「食べる」から減ります。

7 たしざん①

8
ページ

- 1 ① 5
② 7
- 2 ① 5
③ 7
② 8
④ 8
- 3 しき $6+3=9$ ことえ 9 (こ)
- 4 しき $2+4=6$ ことえ 6 (ぼん)

→てびき 1 ブロックの数を数えてもよいですが、「いくつといくつ」で学習した5や7の合成を思い出しながらかくようにならう。

2 たし算の計算練習です。式だけを見て計算することは、最初は抵抗があるかもしれませんが、ブロックに置きかえてあわせる操作をおこないながら、少しずつ計算に慣れていくといよいでしょう。

3 たし算の式に書いて答えをを求める練習です。絵を数値化し、場面を「+、=」を使った式に表します。「あわせていくつ」はたし算の式に表せることをおさえます。

4 「ぜんぶでいくつ」の場面も、たし算の式に書きます。

8 たしざん②

9
ページ

- 1 ① 7 ② 9
③ 9 ④ 10
- 2 $6+4$ $7+2$
 $1+7$ $9+1$
 $5+4$ $2+6$
- 3 しき $3+5=8$ ことえ 8 (だい)
- 4 しき $2+8=10$ ことえ 10 (わ)

→てびき 1 たし算の計算練習です。式だけの計算に慣れるようになるまで、何度も練習しましょう。

2 答えが8、9、10になるカードの組み合わせです。まず、それぞれのカードの横に答えを書いておきましょう。

3 場面を「+、=」を使った式に表します。「ふえるといくつ」の場面は、たし算の式に表せることをおさえましょう。

4 「ふえるといくつ」の場面なので、たし算の式に書きます。たし算の式が書けないときは、ブロックに置きかえて、増やす操作をおこないながら、たし算の式になることを確認させるとよいでしょう。

9 ひきざん① 10 ページ

- 1** **1** 3 **2** 2
3 1 **4** 2
- 2** しき $5-3=2$ こたえ **2** まい
3 しき $6-4=2$ こたえ **2** こ
4 しき $4-3=1$ こたえ 1 (こ)

→**てびき** **1** 「−」はひき算の記号です。慣れるまでは、ブロックを使って考えるとよいでしょう。

2 「のこりはいくつ」というひき算の場面です。使うと減ることから、ひき算の式になることをおさえておきましょう。

3 全部で6個あるボールのうち、4個が白いボールです。6個から4個をひくと赤いボールの数になることに気づかせ、赤いボールが何個になるかを考えます。

4 「のこりはいくつ」の場面なので、ひき算の式に書きます。

10 ひきざん② 11 ページ

- 1** **1** 6 **2** 3
3 1 **4** 6
- 2** **1** みかん
2 3 (こ)
- 3** しき $8-4=4$ こたえ **4** こ
4 しき $10-7=3$ こたえ 3 (ぼん)

→**てびき** **1** ひかれる数が7から10までのひき算です。慣れるまで、ていねいに計算しましょう。

2 「ちがいはいくつ」もひき算の式になります。ブロックに置きかえた図を見て、みかんの数7個から、みかんとりんごが対応した数4個をひけばよいことをおさえましょう。

3 「いくつおおい」もひき算を使います。くりのほうが多いことを確認した上で、必ず数の多いほうから少ないほうをひくように注意しましょう。

4 「いくつおおい」の場面なので、ひき算の式に書きます。わからないときは、絵にかいて考えるとよいでしょう。

11 かずしらべ 12 ページ

1 **1** けえき
2 あめ
3 8 (こ)

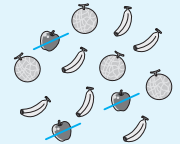
2 **1**

りんご	バナナ	メロン
りんご	バナナ	メロン
りんご	バナナ	メロン
りんご	バナナ	メロン
りんご	バナナ	メロン
りんご	バナナ	メロン
りんご	バナナ	メロン

2 ②ばなな

→**てびき** 絵グラフは、ひと目で数の大小を比較することができます。

- 1** あめは4個、ケーキは8個、ソフトクリームは6個あります。
- 2** 数え間違いを防ぐために、右のように線などでしるしをつけてながら数えるとよいでしょう。
- ①りんごは3つ、バナナは6つ、メロンは4つぬります。ぬるときは、下から順にぬります。
- ②6つあるバナナが、いちばん数が多いです。



12 10より おおきい かず 13 ページ

- 1** **1** ① 11 (こ)
2 15 (ほん)
3 12 (こ)
- 2** **1** 17
2 9
- 3** **1** ① あ $\boxed{18}$ $\boxed{16}$ ② $\boxed{17}$ $\boxed{20}$
() () () ()
- 2** 13
3 17, 18

→**てびき** **1** **2** 10本を○で囲み、10本とあと何本というように数えます。

3 「2、4、6、8、……」と2とびで数えると数えやすくなります。

3 数の線を見て答えます。数の線は、右へいくほど数が大きくなります。

①あ18のほうが右にあるので、18のほうが大きいです。

②い20のほうが右にあるので、20のほうが大きいです。

③15、16と、左から小さい順に並んでいます。

13 10より おおきい かずの けいさん **14** ページ

- 1** ① 14 ② 10
 ③ 16 ④ 13
- 2** しき $10+3=13$ こたえ 13 (ぼん)
- 3** しき $12-2=10$ こたえ 10 (こ)
- 4** しき $15-4=11$ こたえ 11 (ぼん)

→てびき **1** 10といくつになるかを考えて、たしたりひいたりします。

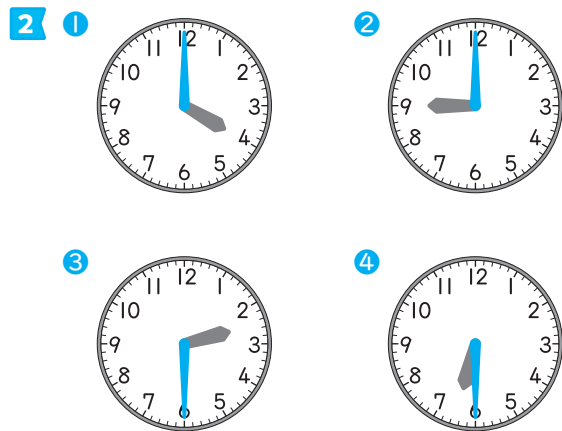
2 「あわせていくつ」の場面なので、たし算です。「10と3をあわせて13」と考えます。

3 「のこりはいくつ」の場面なので、ひき算です。12を10と2に分けます。分けた2から2をひくと、残りは10になります。

4 くじ15本からあたりくじをひいた残りがはざれくじです。残りの本数を求めるので、ひき算の式に書きます。

14 なんじ なんじはん **15** ページ

- 1** ① 3 (じ) ② 8 (じ)
 ③ 1 (じ) はん ④ 10 (じ) はん



→てびき **1** ①、②長針が12を指しているとき

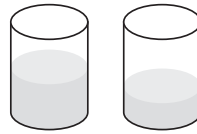
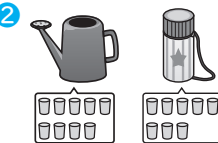
は、短針が指している数字を読んで、ちょうど「〇じ」と読みます。

③、④長針が6を指しているときは、短針は数字と数字の間にあります。小さいほうの数字を読んで、「〇じはん」と読みます。

2 ①、②ちょうど「〇じ」のときは、長針は「12」を指します。

③、④「〇じはん」のときは、長針は「6」を指します。

15 ながさくらべ、かさくらべ **16** ページ

- 1** たて () よこ (〇)
- 2** ㊶, ㊸, ㊹
- 3** ①  ② 
- (〇) () (〇) ()

- 4** ㊸ () ㊹ (〇)

→てびき **1** 折り曲げて比べると、はみ出ている横のほうが長いことがわかります。

2 比べるものが3つになっても、長さの比較のしかたは変わりません。まず目のいくつ分になるかを考えて、長さを比べます。㊸は7ます分、㊹は4ます分、㊶は8ます分です。

3 ②コップの何杯分になるかを考えて比べます。じょうろのほうがコップ1杯分多いから、かさが大きいことがわかります。

4 ㊸の箱を㊹の箱の中に入れることができるので、㊹の箱のほうが大きいことがわかります。

16 3つの かずの けいさん① **17** ページ

- 1** しき $4+2+4=10$ こたえ 10 (ぴき)
- 2** ① 8 ② 7 ③ 1 ④ 9
- 3** しき $12-2-5=5$ こたえ 5 (こ)

→てびき 前から順に計算します。途中の答えを小さく書いておくとよいでしょう。

1 2匹来て4匹来るから、増えて、増えます。式は $4+2+4=10$ になります。

2 ① $\underset{6}{3}+\underset{3}{3}+2=8$ ② $\underset{5}{1}+\underset{4}{4}+2=7$

③ $\underset{3}{9}-6-2=1$ ④ $\underset{10}{16}-6-1=9$

3 2個食べて5個食べるから、減って、減ります。2回ひき算する場面も、たし算と同じように考えて、1つの式に表すことができます。式は $12-2-5=5$ になります。

17 3つの かずの けいさん② **18** ページ

- 1** しき $6+1-4=3$ こたえ 3 (わ)
- 2** ① 8 ② 8 ③ 4 ④ 3
- 3** しき $9-5+4=8$ こたえ 8 (にん)

→てびき **1** 1羽飛んできて4羽飛んでいくから、増えて、減ります。式は $6+1-4=3$ になります。

2 ① $\underset{3}{7}-4+5=8$ ② $\underset{6}{10}-4+2=8$

③ $\underset{7}{5}+2-3=4$ ④ $\underset{10}{6}+4-7=3$

3 5人帰って4人来るから、減って、増えます。式は $9-5+4=8$ になります。

18 たしざん③ 19 ページ

- 1 ① 1
 ② 1
 ③ 5, 15
- 2 ① 13
 ② 12
 ③ 11
 ④ 13
 ⑤ 12
 ⑥ 14
- 3 しき $7+5=12$ こたえ 12 (ひき)

→てびき くり上がりのあるたし算のしかたを学びます。たされる数にいくつたすと10になるかを考えて、たす数を「いくつといくつ」に分けます。

- 1 くり上がりのあるたし算のしかたを問う問題です。たされる数の9は、あと1で10になるので、たす数の6を1と5に分解します。
- 2 たされる数を分解して計算しても構いません。
- 3 「ふえるといくつ」の場面なので、たし算の式に書きます。

19 たしざん④ 20 ページ

- 1 ① 7
 ② 7
 ③ 1, 11
- 2 ① $\boxed{5+9}$ (○) $\boxed{4+7}$ ()
 ② $\boxed{7+8}$ (○) $\boxed{9+3}$ ()
- 3 ① 13
 ② 11
 ③ 11
 ④ 14
- 4 しき $4+9=13$ こたえ 13 (だい)

→てびき あといくつで10になるか、10はいくつといくつからできているか、くり返し唱えながら練習しましょう。

- 1 たす数のほうが大きいたし算の問題です。たされる数にいくつたすと10になるかを考えて、たす数を「いくつといくつ」に分けます。
- 2 カードの答えをそれぞれ求めて比べましょう。
- ① $5+9=14$ $4+7=11$
 ② $7+8=15$ $9+3=12$
- 3 たされる数を分解して計算しても構いません。
- 4 「ふえるといくつ」の場面なので、たし算の式に書きます。

20 ひきざん③ 21 ページ

- 1 ① 5
 ② 1
 ③ 1, 6
- 2 ① 9
 ② 7
 ③ 7
 ④ 4
 ⑤ 9
 ⑥ 9
- 3 しき $15-7=8$ こたえ 8 (ほん)

→てびき くり下がりのあるひき算のしかたを学びます。ひかれる数を「10といくつ」に分けて、10からひく数をひきます。

- 1 くり下がりのあるひき算のしかたを問う問題です。ひかれる数の15を10と5に分解してから計算します。
- 2 くり下がりのあるひき算は、「10といくつ」の考え方が基本になります。1のような計算の手順を唱えて計算できるように、くり返し練習しましょう。
- 3 「いくつおおい」というちがいを求める場面なので、ひき算の式に書きます。

21 ひきざん④ 22 ページ

- 1 ① 1
 ② 7
 ③ 1, 8
- 2 $\boxed{11-2}$ () $\boxed{12-5}$ (○)
 $\boxed{13-5}$ () $\boxed{11-4}$ (○)
- 3 ① 6
 ② 9
 ③ 9
 ④ 8
- 4 しき $12-3=9$ こたえ 9 (にん)

→てびき くり下がりのあるひき算の練習です。「10といくつ」「いくつといくつ」といった数の分解ができるようくり返し練習しましょう。

- 1 くり下がりのあるひき算のしかたを問う問題です。ひかれる数の11を10と1に分解してから計算します。
- 2 ひき算の答えが7になるカードを探します。カードの答えをそれぞれ求め、近くを書いておくとよいでしょう。
- $11-2=9$ $12-5=7$
 $13-5=8$ $11-4=7$
- 3 下のように、ひく数を分解して計算しても構いません。
- ① $11-5=6$ 11から1をひいて10
 \uparrow 4 10から4をひいて6
- 4 「のこりはいくつ」の場面なので、ひき算の式に書きます。

22 0の たしざんと ひきざん 23 ページ

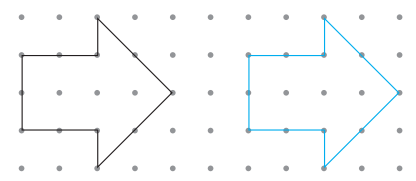
- 1** ① しき $4+0=4$ こたえ 4 こ
 ② しき $4-0=4$ こたえ 4 こ
- 2** ① 3 ② 7
 ③ 0 ④ 0
 ⑤ 6 ⑥ 0
- 3** しき $5-0=5$ こたえ 5 (まい)

→てびき 0のたし算、0のひき算、答えが0になる計算の学習です。

- 1** 2回目は0個入ったと考えて式に書きます。
 ① 0をたしても増えないので、答えは4のままです。
 ② 0をひいても減らないので、答えは4のままです。
- 2** ③ 0に0をたしても、答えは0のままです。
 ④ 同じ数をひくと、答えは0になります。
 ⑥ 0から0をひいても、答えは0のままです。
- 3** 1枚も使わないことを「0枚使った」と考えます。5枚から0枚減るので、式は $5-0=5$ になります。

23 かたちづくり 24 ページ

- 1** ① 2 (まい) ② 3 (まい)
 ③ 4 (まい) ④ 4 (まい)
 ⑤ 8 (まい) ⑥ 6 (まい)
- 2** ① 7 (ほん) ② 16 (ぼん)
- 3** (例)



→てびき **1** ▢や▣は▤を2枚組み合わせ

- できています。▤がそれぞれ何枚分になるかを考えます。
- 2** ①は7本、②は16本使ってできる形です。数え間違いがないように、数えた棒には線などでしるしをつけていくとよいでしょう。
- 3** 点何個分をつなげれば同じ形になるか、もとの図をしっかりと読み取りましょう。ななめの線は、横に点何個分、縦に点何個分進んだ点をつなげればよいかを考えます。答えの(例)と形が合っていれば、正解です。

24 大きい かず① 25 ページ

- 1** ① 50 (こ) ② 25 (本)
- 2** ① 45 ② 5, 9 ③ 100
- 3** ① $\begin{array}{|c|} \hline 47 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{|c|} \hline 74 \\ \hline \end{array}$ ② $\begin{array}{|c|} \hline 95 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{|c|} \hline 98 \\ \hline \end{array}$
 () (○) () (○)
- 4** ① 60, 90 ② 52, 67

→てびき 大きい数は「10のまとまりがいくつと、

- ばらがいくつ」で数えます。十の位は10のまとまりがいくつあるかを表していることを理解しましょう。
- 1** ② 10本ずつ線で囲んで、まず10がいくつあるかを数えます。
- 2** ③ 10が10個で100になります。
- 3** まず、十の位で比べ、同じときは、一の位で比べます。
- 4** ② 数の線の目盛りをよく見て答えましょう。

25 大きい かず② 26 ページ

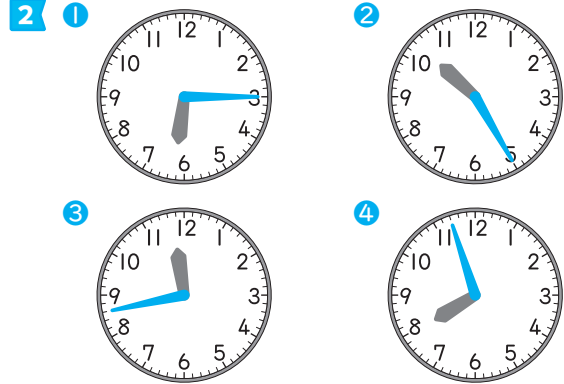
- 1** ① 120 (まい) ② 114 (本)
- 2** ① 112 ② 108, 113
- 3** ① $\begin{array}{|c|} \hline 95 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{|c|} \hline 109 \\ \hline \end{array}$ ② $\begin{array}{|c|} \hline 108 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{|c|} \hline 105 \\ \hline \end{array}$
 () (○) (○) ()
- ③ $\begin{array}{|c|} \hline 114 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{|c|} \hline 117 \\ \hline \end{array}$ ④ $\begin{array}{|c|} \hline 119 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{|c|} \hline 120 \\ \hline \end{array}$
 () (○) () (○)
- 4** 120, 113, 111, 90

→てびき 100より大きい数のしくみを理解しま

- しょう。
- 1** ① 100と20で120になります。 ② 100と14で114になります。
- 2** ① $\begin{array}{|c|} \hline 110 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{|c|} \hline 111 \\ \hline \end{array}$ 、 $\begin{array}{|c|} \hline 113 \\ \hline \end{array}$ $\begin{array}{|c|} \hline 114 \\ \hline \end{array}$ から、1ずつ増えていることに気づかせます。
 ② 数の線を読み取る問題です。目盛りをよく見て答えましょう。
- 3** ②~④ 十の位の数字から比べます。十の位の数字が同じときは、一の位の数字を比べましょう。数の線を想起して比較してもよいです。
- 4** 十の位や一の位を比べて、大きいほうから順に並べるようにします。小さい順に答えてしまうことがあるので、問題文をよく読むように注意しましょう。

26 なんじなんぶん 27
ページ


- 1 ① 11 (じ) 17 (ふん) ② 12 (じ) 36 (ふん)
 ③ 2 (じ) 56 (ふん) ④ 4 (じ) 40 (ふん)
 ⑤ 7 (じ) 49 (ふん)




→てびき ① 短針で何時、長針で何分を読みます。短針が数字と数字の間にあるときは、小さいほうの数字を読みます。長針はいちばん小さい目盛りを読みます。1目盛りが1分であることを理解させましょう。

② いちばん小さい目盛りを数えて長針をかきます。1目盛りは1分です。

27 おなじ かずずつ 28
ページ

1 ①  ③ (こ)

② $3 + 3 + 3 = 9$

2 ①  ④ (人)

② $2 + 2 + 2 + 2 = 8$

→てびき ① ① 図にかいて、●を数えて答えを求めます。

- ② 1人に3個ずつ分けると、おはじきが全部で9個になるかどうかを式に書いて確かめます。 $3+3+3=9$ という式になります。
- 2 ① ビー玉を2個ずつ囲んで考えます。
- ② 1人に2個ずつ分けると、ビー玉が全部で8個になるかどうかを式に書いて確かめます。 $2+2+2+2=8$ の計算で、答えが正しいか確かめましょう。

28 100までの かずの けいさん 29
ページ

- 1 ① 70 ② 100
 ③ 40 ④ 50
- 2 ① 84 ② 69
 ③ 30 ④ 20
- 3 ① 39 ② 46
 ③ 73 ④ 54
- 4 ① しき $64+3=67$ こたえ 67 (まい)
 ② しき $64-4=60$ こたえ 60 (まい)

→てびき ① 何十の計算は、10がいくつになるかを考えます。

① $50+20$ は10が5個と10が2個と考えます。

② ③ 35 を30と5に分けます。5から5をひくと0だから、30になります。

③ たされる数やひかれる数を何十といくつに分けて計算します。

4 ① 「ふえるといくつ」なので、たし算の式に書きます。

② 「のこりはいくつ」なので、ひき算の式に書きます。

29 ひろさくらべ、ものの いち 30
ページ

1 ① あ (○) い ()
 ② あ (○) い ()
 ③ あ () い (○)

2 ①

☆	●	□	△
◇	♥	♣	♠
✱	魚	☾	✳

② 上、左

→てびき ① ③色をぬった□の数で比べます。あは15個、いはいは16個だから、いのほうが広いです。

② ものの位置を上下左右の言葉を使って表せるようになりましょう。

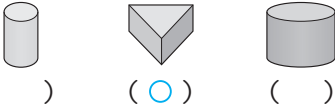
30 ずをつかって かんがえよう 31
ページ

- 1 しき $8+3=11$ こたえ 11 (人)
- 2 ① (上から順に) 9, 2
 ② しき $9-2=7$ こたえ 7 (こ)

→てびき ① いすの数を人の数に置きかえて考えています。8つのいすに8人が座るから、8人と座れない3人をたして、 $8+3=11$ で、11人になります。

② なみさんのおはじきの数は、けんさんのおはじきの数より2個少ないです。けんさんのおはじきの数から、少ない分の数をひいて求めます。

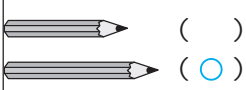
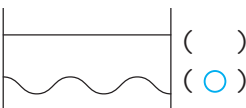
31 しあげの テスト① 32 ページ

- 1) 7, 9
 2) 4
 3)  () (○) ()
 4) ① 4 ② 6
 5) ① 4 ② 10
 ③ 3 ④ 6
 6)

りんご	バナナ	みかん

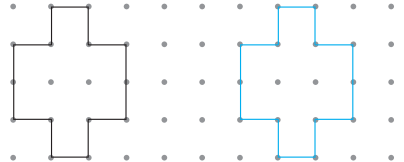
→てびき 1) 数の順序が数字でわかるようにします。途中からでもいえるようにしましょう。
 2) まず、くまの位置を確認し、基準が左か右かおさえてから数えます。
 3) それぞれの立体の形をよく見て、転がる形と転がらない形に区別します。面をよく見て、形の特徴をとらえましょう。
 4) わからないときは、○をかいて考えましょう。
 5) 式だけを見て計算するのに戸惑っている場合は、絵をかいたりブロックなどを使ったりして考え、慣れてきたら式だけを見て計算できるようにしましょう。
 6) 数え間違いを防ぐために、線などでしるしをつけながら数えるとよいでしょう。りんごは4つ、バナナは3つ、みかんは5つぬります。下から順にぬるようにしましょう。

32 しあげの テスト② 33 ページ

- 1) ① 16 ② 17
 2) ① 19 ② 10
 ③ 9 ④ 7
 ⑤ 14 ⑥ 7
 3) ① 7 (じ) ② 4 (じ) はん
 4) ①  () (○)
 ②  () (○)

→てびき 1) ① 10と6で16です。
 ② 20-19-18 から、大きい順に並んでいることがわかります。
 2) ① 10といくつと考える計算します。
 ② 13を10と3に分けます。分けた3から3をひくと0だから、10になります。
 ③、④前から順に計算します。
 ⑤くり上がりのあるたし算です。たされる数にいくつたすと10になるかを考えて、たす数を分解します。
 ⑥くり下がりのあるひき算です。ひかれる数を「10といくつ」に分けて、10からひく数をひきます。
 3) ①長針が12を指しているときは、短針が指している数字を読んで、ちょうど「〇じ」と読みます。
 ②長針が6を指しているときは、「〇じはん」と読みます。「5じはん」という間違いに注意します。
 4) ②まっすぐにしたときの長さを比べます。下の線は曲がっているの、下の線のほうが長くなります。

33 しあげの テスト③ 34 ページ

- 1) (例) 
 2) ① 5 ② 0
 ③ 80 ④ 20
 ⑤ 45 ⑥ 63
 3) 9じ59ふん
 4) 117, 110, 107, 101
 5) ㉞ () ㉟ (○)

→てびき 1) かかれた形をしっかりと見て、つなぐ点を間違えないようにしましょう。答えの(例)と形が合っていれば、左や右にずれていても正解です。
 2) ① 0をたしても増えないので、答えは5のままです。
 ②ひかれる数とひく数が同じとき、答えは0になります。
 ④22を20と2に分けます。2から2をひくと0だから、20になります。
 3) 短針で何時、長針で何分を読みます。「10じ59ふん」と間違えないように注意しましょう。
 4) 大きい順に並べるようにします。「100といくつ」と考え、いくつの部分の十の位や一の位を比べたり数の線を想起したりして、並べかえるようにしましょう。
 5) 色をぬった□の数で比べます。㉞は11個、㉟は12個だから、㉟のほうが広いです。

せいかつ

1 がっこうを たんけんしよう 35 ページ

- 1 ①おながくしつ ②としょしつ ③しいくごや

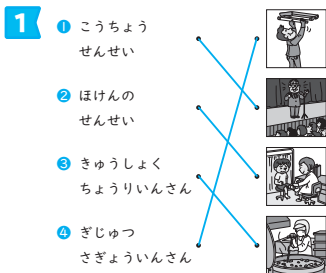


しずかに たんけんする。 はしりながら どうする。 はじめに あいさつする。 おはなしの おれいを。 なにを さくか かんがえて おく。 ひとりて こうどうする。

→てびき 1 そのほか、校長室、職員室、保健室、理科室、図工室、体育館、プール、放送室などがあります。実際に学校を探検して、お子さまがどんな教室や場所が印象に残ったか、どうしてそう思ったかなどを聞いてあげましょう。

2 大人と話すときは、ていねいな言葉づかいで話すよう伝えましょう。また、自分の名前を言えるようにしましょう。

2 がっこうの ひと はなそう 36 ページ



① こうちょう せんせい
② ほけんの せんせい
③ きゅうしよく ちょうりいんさん
④ ぎじゅつ さぎょういんさん

- 2 ①おはようございます。 ②いただきます。 ③さようなら。

→てびき 1 ④は、「管理作業員」「校務員」「学校用務員」「技能員」さんなど、地域や学校によってさまざまな呼び方があります。

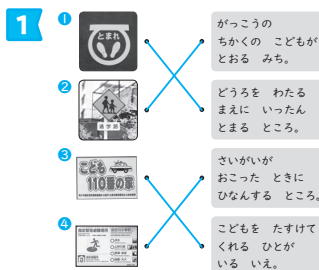
2 学校での一日の流れを振り返り、それぞれどんな場面かを見ていきましょう。

3 こうていを たんけんしよう 37 ページ

- 1 しいくごや・いけ・かだん・すなば
- 2 ①ちょう ②てんとうむし ③だんごむし

→てびき 学校にはどんな花が咲いていたか、どんな生き物がいたかなどをたずねてみましょう。

4 がっこうの まわりを あるこう 38 ページ



① がっこうの ちかくの こどもが とおる みち。
② どうろを わたる まえに いったん とまる ところ。
③ さいがいが おこった ときに ひなんする ところ。
④ こどもを たすけて くれる ひどが いる いえ。

- 2 ①○ ②× ③×

→てびき 1 通学路には、さまざまな標識や看板があります。それぞれどんなところか確認しておきましょう。

5 はなを そだてよう① 39 ページ

- 1 ①ひまわり ②ふうせんかずら ③ほうせんか
- 2 ㉠ ㉡ ㉢ ㉣ ㉤
- 3 ㉠

→てびき 1 植物によって、たねの形や色、模様が違います。比べてみましょう。

2 ㉠アサガオのたねをまくときは、たね3個分ほどの深さのところまきます。

3 発芽して最初に出てくる葉が双葉です。双葉の形も植物によって異なります。㉠はヒマワリ、㉣はホウセンカです。

6 はなを そだてよう② 40 ページ

- 1 ㉠ ㉡ ㉢ ㉣ ㉤
- 2 ㉠・㉡
- 3 ちやいろ

→てびき 2 アサガオを育てるときは、日当たりと風通しのよい場所に置きます。水は土の表面がよく乾いたらやるようにします。

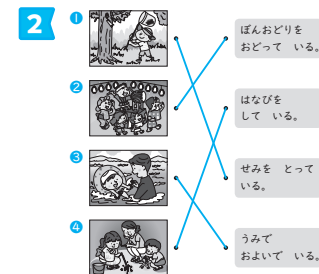
7 あそびばに てかけよう 41 ページ

- 1 ①かんむりづくり ②くさずもう ③わたげとばし ④どろだんご
- 2 ①× ②× ③○

→てびき 2 公園などで遊ぶときは、順番を守る、大声で騒がない、花壇を荒らさないなどマナーを守るよう話しておきましょう。

8 なつと なかよし 42 ページ

- 1 ひまわり・たなばたかざり・すいか・あさがお・せみ・ごうや



① ぼんおどりを おどって いる。
② はなびを して いる。
③ せみを とって いる。
④ うみで およいて いる。

→てびき 1 服装や食べ物など、暮らしの中で感じる夏について、話し合ってみましょう。

2 夏は、夏祭りや盆踊りなど、地域の行事がたくさんあります。どんな行事があるか調べ、お子さまと参加するとよいでしょう。

9 いきもの だいすき① 43 ページ

- 1 うさぎ・にわとり・もるもっと
- 2 ①あ ②い
- 3 にんじん・きゃべつ

→てびき 動物とふれあうときには、大声で騒がない、必ず座ってだっこする、お子さまの口元に動物の顔や足を近づけないなど約束しましょう。また、動物とふれあう前後には、必ず手を洗う習慣をつけるようにしましょう。

10 いきもの だいすき② 44 ページ

- 1 ①ばった ②こおろぎ ③とんぼ ④かまきり
- 2 ①い ②あ
- 3 う

→てびき 1 公園では、このほか、アリやチョウ、テントウムシなどを見つけられるでしょう。
3 ショウリョウバッタを育てるときは、えさとなるエノコログサを、土と一緒に根っこごと入れるとよいでしょう。

11 あきと なかよし① 45 ページ

- 1 かき・ぎんなん・さつまいも・どんぐり・おちば・こすもす
- 2 ①あいちよう いかえて ②い

→てびき 1 セミは夏、カマキリの卵、スイセンは冬に見かけるものです。
2 木の種類によって葉の形が異なることや、季節が変わると色づくものがあることに気づかせましょう。色は、赤色、黄色、褐色とさまざまです。

12 あきと なかよし② 46 ページ

- 1 ①どんぐり ②まつぼっくり ③おなもみ
- 2 いちよう・さくら・くぬぎ・かえで

→てびき 2 落ち葉アートに使える葉は、このほか、ツタ、ケヤキ、ポプラ、プラタナスなどがあります。木によって、さまざまな色や形があるので、たくさん集めて楽しみましょう。

13 いえでの せいかつ 47 ページ

- 1 (しょうりやく)
- 2 ①くつぞろえ ②しょっきはこび ③せんたくものたたみ ④ふるそうじ

→てびき 1 毎日規則正しい生活が送れているか、自分のことは自分でできているかなどを確認しましょう。1つでも〇がついていればよいでしょう。
2 家族の一員として、家の仕事をするのは大事です。普段続けているお手伝いがあれば、家族が助かっていることを伝え、ほめましょう。

14 ふゆと なかよし 48 ページ

- 1 ストーブ・しもばしら・こたつ・ツバキ・ほしがき・ゆきだるま
- 2 ①い ②あ
- 3 い

→てびき 2 葉が落ちてしまった木をよく見ると、小さな芽がついていることに気づきます。カマキリの卵やミノムシなどを見つけるのが難しくても、こうした何気ない風景の中で、季節の移り変わりにふれることができます。
3 風のはたらきは、3年生以降の理科(エネルギー)につながります。

15 もう すぐ 2年生 49 ページ

- 1 ①い ②え ③う ④あ
- 2 あ・い・え

→てびき 1 ○の周りの絵から、①は春、②は冬、③は秋、④は夏であることがわかります。植物や生き物の様子、衣服の違い、その季節ならではの遊びなどから四季の特徴をとらえるよう促しましょう。また、これらの絵を通して、お子さまが1年間でどんな体験をしたか、思い出させてあげましょう。
2 新しい1年生との交流を通して、自分の成長が実感できるはずです。1年間の学校生活で、楽しかったことやできるようになったことについて、お子さまの話聞いてあげましょう。また、2年生になったらやってみたいことについても話し合ってみましょう。

16 しあげの テスト 50 ページ

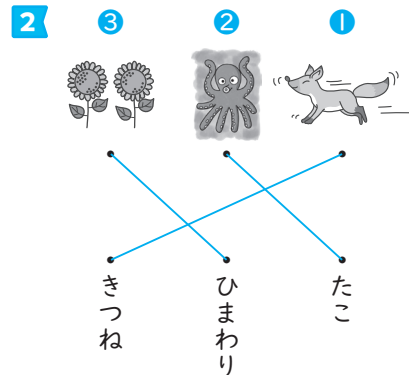
- 1 ①いか ②の ③お ④す ⑤し
- 2 なつ
- 3 う, え, い

→てびき 1 自分の身は自分で守ることが大切です。「いかのおすし」は、お子さまにとって覚えやすい合言葉です。イラストと組み合わせて、繰り返して覚えさせましょう。
2 ほかの季節には、どんな生き物を見たか、振り返ってみましょう。
3 アサガオは、花が終わってしばらくすると、花のもとの部分がふくらみます。そのふくらみは、最初は緑色をしていますが、やがて茶色に変わり、中にたねができます。

こくご

1 ひらがなを かこう① 51 ページ

- 1 ①ろうそく ②いぬ



- 3 ①あひる ②いるか ③うちわ ④えき
⑤おに

→てびき 3 ひらがなのなかでも「あ」は、正しく書けるようになるまで時間がかかります。「え」「わ」も、書くのが難しいひらがなです。形に気をつけて、繰り返し練習しましょう。

2 ひらがなを かこう② 52 ページ

- 1 ①ぎる ②まど ③かぎ ④がらす
2 ①ぞう ②うさぎ ③ぱんだ ④おれんじ
⑤ひつじ ⑥びざ

→てびき 五十音のなかでも、力行・サ行・タ行・ハ行以外は濁音をもちません。例えば、「かき」に濁点をつけると、「かぎ」「がき」といった別の言葉になります。しかし、「まり」などに濁点をつけても、別の言葉になりません。濁点をつけても別の言葉にならない行は、濁音をもたないことに注意しましょう。半濁音についても、同じです。

3 ちいさい「ゃ・ゆ・よ・つ」、のぼす おん 53 ページ

- 1 ①ねっこ ②まっと
2 ①きって ②しっぽ
3 ①おばあさん ②おおかみ ③せんせい ④ほうき
4 ①かぼちゃ ②きゅうり

→てびき 1 促音である小さな「っ」があると、「ねこ」が「ねっこ」になるように、別の言葉になることを通して、促音の意味を理解しましょう。また、促音は直前の文字と一緒に読みますが、一つのますに書きます。そして、促音の書く位置にも気をつけましょう。促音は、ますの右上に書きます。

- 3 ② のぼす音である長音の「お」と「う」の使い分けに関する問題です。オ段の字をのぼすとき④の「ほうき」のように、「う」と表すのが一般的です。「お」を用いるのは、「おおかみ」の他に「おおきい（大きい）」「おおい（多い）」「こおり（氷）」「とおい（遠い）」「とおり（通り）」「とお（十）」など、限られているので覚えるようにしましょう。
③ エ段の長音はほとんどの場合、「せんせい（先生）」のように「い」と書き表します。しかし、「おねえさん（お姉さん）」は、「え」と書きます。
4 ① 「ぼ」の「ゝ」の位置、促音の「ゃ」の位置に気をつけて書きましょう。

4 「は・を・へ」を つかおう 54 ページ

- 1 ①ア ②イ ③ア ④ア ⑤イ
⑥イ
2 ①は、へ ②は、を ③は、へ ④は、を

→てびき 1 助詞の「は」「を」「へ」は、「ワ」「オ」「エ」と発音し、表記が異なります。そのため、それぞれ音が同じである「わ」「お」「え」と間違えてしまうことがあるので、しっかり覚えましょう。
2 ①、③助詞の「へ」は、「どこへ」という場所や方向を表すときに使うことを覚えましょう。
④「ぼくは うたう。」と「うたを うたう。」という二つの文にすると、どの助詞がつくのが、理解しやすくなります。

5 ぶんを かこう① 55 ページ

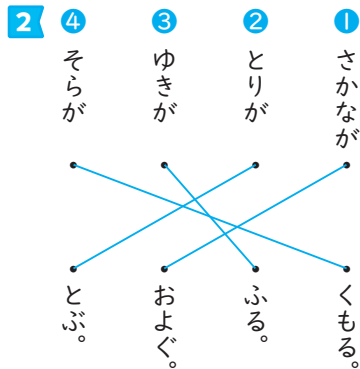
- 1 ①かぜが ふく。
②つきが ゆっくり のぼる。
③ほしが きらきら かがやく。
④ちょうが ひらひら とぶ。
⑤たいようが しずかに しずむ。
2 ①はしる ②ほえる ③うたう ④ゆれる
⑤ながれる

→てびき 1 「〇〇が 〇〇する。」という、文の基本の形をしっかりと覚えましょう。線は（れい）と同じように「が」までひきます。質問の指示どおりに答えているか気をつけましょう。
2 ④「ゆらゆら」は、含まれません。「ゆらゆら」は、「どう する」を表す「ゆれる」をくわしくする言葉です。

6 ぶんを かこう②

56
ページ

- 1 ①せみ
なく
②うさぎ
はねる
③りんご
おちる



- 3 (例) きりんが
ひく

→てびき 1 自分や身近な人・もののことを振り返って、「〇〇が 〇〇する。」という文を、たくさん作ってみるとよいでしょう。

- 3 「きりんが」を「どうぶつ」としていたり、「ひく」を「えんそうする」などとしていたりしても、同じような意味であれば、正解です。

7 どんな はなしかな

57
ページ

- 1 ①ねずみ
②ゆか
③がたがた
④ねずみ
⑤ (例) ゆかを たたきました。

→てびき 1 ①「ねずみが、さんぽから かえって きました。」とあります。
②③「ゆかの したから、がたがた おとが きこえます。」とあります。
④この文章で登場しているのは、ねずみです。
⑤「また、おとが きこえます。」の後のねずみの行動は、ゆかをたたいたことです。同じような意味であれば、正解です。

8 「まる・てん・かぎ」をつかおう

58
ページ

- 1 ①うまが くさを
たべて いる
②みんなが はたを
ふって
おうえんする
2 いもうとは、
「おはよう。」
と いった。
3 ①そらを ひこうきが
とんで います
②こどもが
「 おうい 」
と てを ふります
4 わたしは おかあさんに
「ただいま。」
と いいました。

→てびき 1 てん (、) は、文が読みやすくなる位置にうつことを心がけます。文の終わりには、必ずまる (。) をつけましょう。
3 ②会話文にかぎ (「」) をつけるとき、会話文のまる (。) と、とじるかぎ (」) を一つのまますに収めて書くことにも気をつけましょう。

9 ぶんを かこう③

59
ページ

- 1 ① (例) かめ
あらう
② (例) とり
たべる
③ (例) かば
みがく
④ (例) ねこ
のお

- 2 ①は、へ ②を ③え、う ④お

→てびき 2 ①助詞の「は」「へ」は、「ワ」「エ」と発音しますが、「わ」「え」とは書かないことを覚えましょう。
②助詞の「を」は、「オ」と発音しますが、「お」と書き間違えないようにしましょう。

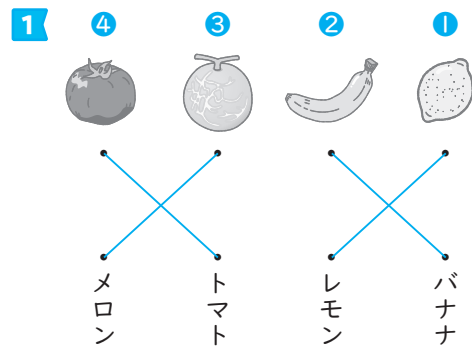
10 だれが どう する

60
ページ

- 1 ①ウ
②ねこ…いぬ いぬ…まご
③まご
④ (例) ぬけました。

→てびき 1 ①「ねこは ねずみを よんで きました。」とあります。問題文では、「ねずみは」と主語が変わっているので、注意しましょう。
②「ねこが いぬを ひっぱって、いぬが まごを ひっぱって」とあります。
③「まごが おばあさんを ひっぱって」とあります。
④「やっと、かぶは ぬけました。」とあります。文から書き抜くと、「ぬけました。」ですが、「ぬけた。」と書いても正解です。

11 かたかなを かこう① 61 ページ



- 2 ①ネクタイ ②ミシン
3 ①タイヤ ②トラック ③ケーキ ④ロープ
⑤ベッド ⑥ニュース

→てびき 2 一つひとつ、形を確認して、ていねいに書きましょう。
②「ミ」と「シ」は、三画の向きに注意しましょう。
3 ②、⑤小さい「ッ」を、ますの中の正しい位置に書いているかを確認しましょう。
③、④、⑥のはず音「ー」を書き忘れたり、位置を間違えたりしないよう注意しましょう。

12 かたかなを かこう② 62 ページ

- 1 ①イ ②ア
2 ①ア ②イ
3 ①ゴロゴロ ②ワンワン ③チリンチリン
④ザーザー ⑤ガチャン ⑥パチパチ

→てびき 1 「ン」と「ソ」、「シ」と「ツ」など、形の似ているかたかなは間違えやすいので、注意しましょう。
2 拗音である小さい「ョ・ユ」の使い方に注意して言葉を覚えましょう。

13 かんじの よみ かき① 63 ページ

- 1 ①ひと ②に ③さん ④よん ⑤ご ⑥むつ
⑦なな ⑧やっ
2 ①月 ②九 ③十 ④木 ⑤小
⑥大

→てびき 1 数を表す漢字は、使い方によって読み方が異なるので、注意しましょう。例えば、「四」は「四さつ」は「よん」、「四時」は「よ」、「四月」は「し」と読みます。
2 漢字を書くときは、筆順（書き順）にも注意して書くようにしましょう。正しい筆順で書くと、形の整った漢字になります。

14 かんじの よみ かき② 64 ページ

- 1 ①こ ②て ③てん ④み ⑤ぶん ⑥ただ
⑦おし ⑧ほん
2 ①男 ②空 ③山 ④字 ⑤口 ⑥川

→てびき 1 ③「天」は「てん」と読んだり、「あま」（天の川）と読んだりすることがあります。漢字には読み方が一つではなく、複数あるものもあることを覚えておきましょう。
2 ⑤「口」は四画ではなく三画で書きます。画数にも注意しましょう。

15 なんの はなしかな 65 ページ

- 1 ①ながく
②はちどり
③はなの みつ
④これは、なんの くちばしでしょう。

→てびき 1 ①くちばし

①くちばしの様子が書かれているのは、最初の文です。文にあわせ、「ながい」ではなく、「ながく」と書きましょう。
②「これは、なんの くちばしでしょう。」という文の後に、「これは、はちどりの くちばしです。」とあります。まずは四つなので、四字の言葉で答えます。また、「の くちばし」につながるよう書きましょう。
③くちばしを花の中に入れること、花のみつを吸うことが二文にわかれているので、注意しましょう。はちどりは、くちばしを花の中に入れて、花のみつを吸うのです。
④問かけの文になっている文を探しましょう。「なんの」は、質問のときに使う言葉なので、探すときのヒントになります。また、文の終わりの形が「～でしょう。」となっているのも質問のときの表現です。

16 かんじの よみ かき③ 66 ページ

- 1 ①みず ②あお ③した ④くるま
⑤はやし ⑥なか ⑦まち ⑧おう
2 ①出 ②休 ③糸 ④赤 ⑤耳
⑥二年生

→てびき 2 ②「休」は、形の似ている「木」などと書き間違えないよう注意しましょう。
③「糸」は、「く」と「く」をそれぞれ一画ずつで書き、全部で六画で書きます。
⑤「耳」は、横画の数を間違えないように注意しましょう。

17 かんじの よみ かき④ 67 ページ

- 1 ①もり ②き ③い ④な ⑤ゆう
⑥ひゃくえん ⑦かね ⑧おと
- 2 ①川 ②田, 雨 ③竹, 日 ④火

→てびき 2 「川」「田」「雨」「竹」「日」「火」などの漢字は、もともとは実物を絵で表していたものを、簡略化して作られた「象形文字」です。「上」や「下」など、絵には表しにくいものは、記号によって表した文字もあり、それは「指事文字」といいます。それぞれ、どのような形がもとになって今の漢字ができあがったのか、主だったものは知っておくとよいでしょう。

18 だいな ことは なにかな① 68 ページ

- 1 ①すかんく
②(すかんくの) おしり
③てきが きた
④(例) さかだちを やめて、くさい しるを とばします。

→てびき 1 ①「これは、すかんくです。」とあります。
②「すかんくの おしりからは、くさい しるが できます。」とあります。
③「てきが きたら、さかだちを して、おどかします。」とあります。「かきぬきましょう。」とあるので、文章から「とき」につながるように書き抜きます。
④「てきが にげないと、さかだちを やめて、くさい しるを とばします。」とあります。「くさい しるを とばす。」など、同じような意味であれば、正解です。

19 どんな じゅんじよかな 69 ページ

- 1 ①しまうま ②三十ぶん ③七
④(右から順に) 2, 3, 1

→てびき 1 ②赤ちゃんがいつ立ち上がるのか、時間を表す言葉を探します。最初の文に、「しまうまの 赤ちゃんは、生まれて 三十ぶんもたたない うちに、じぶんで 立ち上がります。」とあります。
③「かん字で」とあるので、数字やひらがなで書かないようにしましょう。
④時間や順序を表す言葉に着目します。赤ちゃんは、生まれてすぐ立ち上がります。「そして、つぎの 日には」走るようになります。「そのあと」草も食べるようになります。

20 しを よもう① 70 ページ

- 1 ①一 ②ア ③ぼく, わたし

→てびき 1 ①「あおい そらの こくばんに／なに かこう」とあります。その後、書くものについて、表現している箇所があるので、探しましょう。「いちねんせいの 一」とあります。
②空の黒板に書く様子について、「うでを のばし／ちからを こめて／まっすぐ」とあります。「ちからを こめて」いるので、イの「よわよわしく」は、適切ではないことがわかります。また、「まっすぐ」とあるので、ウの「まがった じて」も、適切ではありません。
③「ぼくも かく／わたしも かく」とあります。書いたのは、「ぼく」と「わたし」です。ますにあわせて、書き抜きましょう。

21 かんじの よみ かき⑤ 71 ページ

- 1 ①あ ②がっこう ③た ④やす ⑤せんえん
⑥みず ⑦しゃ ⑧めだま
- 2 ①人 ②石 ③右足 ④女 ⑤犬 ⑥貝

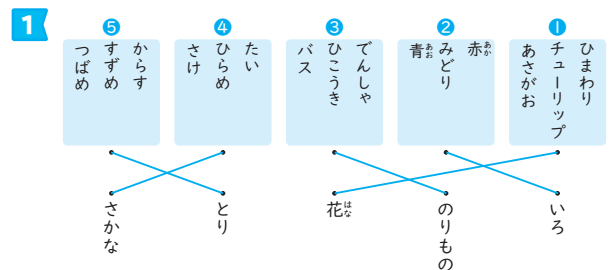
→てびき 1 ①送りがなに注意して読みます。「上がる」は、「あーがる」と読みますが、「上る」は、「のぼーる」と読みます。
②「学」は、「学校」のときは「がっ」と読みますが、「学しゅう」や「大学」のときは、「がく」と読みます。
④「休」は、「休める」のほかに、「休む」、「休まる」という読みがありますが、送りがなは違って読みは「やす」です。
⑦じてん車の「車」を「くるま」と読み間違えないようにしましょう。
2 ①「人」は、形の似ている「入」と書き間違えないよう注意しましょう。

22 かんじの よみ かき⑥ 72 ページ

- 1 ①むら ②しろ ③ひだり ④はな
⑤くさ ⑥はや ⑦ちから ⑧せんせい
- 2 ①月, 火 ②水, 木 ③金, 土
- 3 ①みっか ②むいか ③なのか ④ようか
⑤こののか ⑥とおか

→てびき 2 曜日を表す漢字、順番、読み方は、しっかり覚えましょう。
3 日付には、特別な読み方があります。「一日(ついたち)」「二日(ふつか)」「三日(みっか)」「四日(よっか)」「五日(いつか)」「六日(むいか)」「七日(なのか)」「八日(ようか)」「九日(こののか)」「十日(とおか)」。なお、「七日」は「なぬか」と読むこともあります。

23 いろいろな ことば 73 ページ



- 2 ①左
②下
③小さい
- 3 ①あき
②よる (ばん)

→てびき 1 「まとめて つけた なまえ」が、何のことかわかりにくい場合は、「ひまわりやチューリップは、お花だね。」など、よく知っているものを例にとって、考えるきっかけにしましょう。また、「たい」「ひらめ」など、知らない名前があった場合は、好きな魚を例に出し、「ひらめは、〇〇と同じ魚だよ。」と伝えると、語彙が増え、理解も深まります。

2 「右」と「左」、「上」と「下」、「大きい」と「小さい」などの対義語はセットで覚えましょう。

3 ①季節の言葉です。「春の次は夏」というように、矢印の意味も理解し、順番も一緒に覚えておくとよいでしょう。

24 どんな ようすかな 74 ページ

- 1 ①くろい
②イ
③しゅんぼり

→てびき 1 ①雲の様子を表しているところを探しましょう。雲の様子を表している文は、「くろい くもが、わっさ わっさと あつまって～」です。「くも。」につながるように、「くろい」という部分を書き抜きましょう。

②「わっさ わっさ」は、たくさんのもが動いていて、騒がしい様子を表すことが多い表現です。

③火が消えた後の山の様子を表している文は、「山は、しゅんぼりと かおを みあわせました。」です。「しゅんぼりと」は、「元気がなくしおれている」という意味です。

25 どんな 気もちかな 75 ページ

- 1 ①イ
②(いたずらもんだが、) かわいいな。
③こわごわ
④かわいそう

→てびき 1 ①「おかみさんは、おもわず ふき出しそうに なりましたが」とあります。おかしくてふき出しそうになっているので、「おかしいな。」とまっていることが読み取れます。

②おかみさんは、「いたずらもんだが、かわいいな。」と言っています。たぬきのことを「かわいいな。」とまっていることがわかります。

③おかみさんの様子を表す言葉を探します。「おかみさんが こわごわ いてみると」とあります。

④おかみさんは、「かわいそうに。」と、言っています。答えは、「だど おもいました。」に続くように書きましょう。

26 だいじな ことは なにかな② 76 ページ

- 1 ①ほそながく
②くわえたり、かかえたりして
③せなかに のせて
④(例) もようが つながって 見える

→てびき 1 ①「オオアクリイの 口は ほそながく なって います。」とあります。

②ライオンなどは、「くわえたり かかえたりして、はこびます。」とあります。「はこぶ。」に続くように書きましょう。

③オオアクリイは、子どもをくわえて運ぶことはできません。そのため、「子どもを せなかに のせて」はこびます。

④オオアクリイは、子どもを背中にのせて運ぶことによって、親と子どもの体の「もようが つながって 見え」るようにしています。

27 しを よもう② 77 ページ

1 ①てと て ②ことば ③ところ ④ア

→てびき 1 ①この詩では、握手を「てと ての でんわ」にたとえています。

②電話では、言葉を交わします。握手によって、電話で言葉を交わしたような気持ちになることを「ことばが つたわる」と表現しています。

③「つながる」という言葉に着目しましょう。「ところが つながる」は、握手をすることによって、気持ちを通じ合わせ、親しくなった気持ちになることを表現しています。

④「きれた あとまで/あたたかい」から、うれしい気持ちが続いていることがわかります。

- 1) ①へ
②を
③は
- 2) ① (例) うさぎ
たべる
② (例) さる
おちる
- 3) 青い 空を 見て、
おとうさんが
「きれいだね。」
と いった。
- 4) ①左
②林
- 5) ①よっか
②いつか

→てびき 1) 助詞の「は・を・へ」は発音と表記が違います。使い方に気をつけましょう。

- 2) ①答えは、「うさぎ」が「どうぶつ」、「たべる」が「かじる」などでも正解です。
②答えは、「さる」が「どうぶつ」などでも正解です。
- 3) 文の終わりには必ずまる(。)をつけましょう。
- 4) ①形の似ている「右」と間違えないよう注意しましょう。
- 5) ②日付は、特別な読み方をします。日付でなければ、「五」を「ご」と読んでも間違いではありませんが、問題に「ひづけの よみがな」とあるので、「いつか」と答えるのが正解です。

- 1) ①おばあちゃん
②ウ
③だあいすき
④ (例) おばあちゃんに おれいを つたえる
ため。

→てびき 1) ①「けいと の チョッキが」の前に「中には」とあります。これは、その前の文「なん日か たって、おばあちゃんから 小づつみが とどきました。」にある、「小づつみ」の中のことです。

②チロは、もらったチョコキを「しましただ。」と言っています。しましただなのは、いちばん小さい「赤と 青の よこじま」のものです。

③「あ、しましただ。だあいすき。」は、チロが言ったものです。チロは、チョコキを見て、「だあいすき」と言っています。「だあいすき」は、チョコキを見て、チロが思ったことなので、ここを書き抜きましょう。「ありがとう」も、チロが思ったことですが、問題文に「みた と き」とあるので、チョコキを見た直後に言った言葉から書き抜きます。

④チロは、木へかけのぼった後、二回、「ありがとう。」と言っています。答えは、「おばあちゃんにありがとうを言うため。」などでも正解です。

- 1) ① (子そだてを する) す
② (例) じゃりの じめんに すを つくる
③ (右から順に) 2, 1, 3
④ (例) てきの ちゅういを ひなから そらす
ため。

→てびき 1) この文章は、コチドリが子どもを守る
ことについてのものです。

①「コチドリは、子そだてを する すを、
じゃりの じめんに つくります。」とありま
す。

②「ひなが てきから よく 見えて しま
います。」の文の頭に「そのため」とあること
に着目します。この前に、敵からよく見える理由
が書かれています。

③順序を示す「そして」「さらに」という言葉
に着目しましょう。「はねを バサバサと は
ばたかせます。」の文の頭に「そして」があり
ます。その前に「早足で、すから とおざかり
ます。」とあるので、1「早足で すから とお
ざかる。」、2「はねを はばたかせる。」の順
だとわかります。次に「さらに」とあり、「よ
ろよると あるいて、すから とおく はなれ
ます。」とあるので、「よろよると あるいて、
すから はなれる。」が最後になります。

④最後の文は、コチドリが巣から遠ざかり、よ
ろよると歩く理由が書かれています。敵は弱い
ものをねらうので、親はけがをしているふり
をし、敵に注目させ、注意をひなから自分へ移
そうとします。同じような意味の「てきの ち
ゅういを そらすため。」「ちゅういを じぶん
に おけるため。」などでも正解です。